

津島市議会議員

ながや

長屋 やまと



ごあいさつ

こんにちは。津島市議会議員の長屋大和です。
日頃から、市民の皆様には多数のご意見やご要望をお寄せ頂きありがとうございます。

まだまだ収まらない新型コロナウイルス感染症の影響で、多くの病院や施設で患者さんと御家族の方の面会が制限されています。この影響で、今まで以上に治療やケアについて、お互いで話し合う機会が減っています。今回の一般質問ではACPを取り上げました。津島市民の方が自身の将来のケアについて家族や利用者と話し合っただけで自己決定ができる、それが津島市ではスタンダードになる、そんな理想に向けて、今回の議会でACPについて質問させていただきました。

これかかも、私は市民生活の安心・安全を第一目標に、皆様の声を市政に届け、積極的に政策提言をしております。
今後ともよろしくお願いいたします。

略歴

1993年7月生まれ
名城大学卒業
総合アパレルメーカー勤務
衆議院議員 岡本みつのり 秘書



ACP人生会議 <https://www.med.kobe-u.ac.jp/jinsei/index.html>

こんな最期だったらいいな、こんな医療やケアはちょっと嫌だななど、質問に答えながら実際にACPを体験することができます。



長屋やまとの活動にお力添えをいただける方を募集しています。
一緒に活動をしていただける方は後援会事務局までお問い合わせよろしくお願い致します。

後援会事務所
〒496-0026 津島市唐臼町油田 64-1-B101

後援会事務局
〒492-8181 稲沢市日下部北町 4-1-3 岡本みつのり事務所内
TEL 0587-24-8164 FAX 0587-24-8165



● ACPについて

【質問】 ACPとはどのようなものか。

【答弁】 アドバンス・ケア・プランニングの略称であり、厚生労働省は「人生会議」との呼称をつけている。もしものときのために自らが希望とする医療や介護を受けるために、大切にしていることや望んでいること、またどこでどのような医療や介護を望むかを自分自身で前もって考え、その希望や価値観を周囲の信頼する家族等や医療・介護関係者と繰り返し話し合い共有する取組のこと。

【質問】 厚生労働省の調査によると、55%の人が家族や医療者、介護関係者らと話し合ったことがなく、意思表示の書面を作成している人は僅か8%でした。話し合いの重要性には多くの人が賛成しているが、実際に行動に移す方は少ないのが現状だが、市民病院ではACPについてどのように取り組んでいるのか。

【答弁】 超高齢社会において、患者さんや御家族の意思決定支援は今まで以上に重要になってくることから、令和3年度の重点取組事項としてACPの推進を掲げている。人生の最終段階の医療、ケアを受けられる患者さんに関して、その後の診療計画を考える際、医師をはじめ看護師等の医療従事者が連携し、患者さんや御家族の考えをしっかりと伺うとともに、考えられる治療方法の選択肢と、その予測される結果について丁寧に御説明させていただき、患者さんや御家族が望まれる医療、ケアの選択、提供ができるよう支援している。

【質問】 市民病院では、医療従事者を対象とするACPに関する研修を受けた方はいるのか。

【答弁】 平成30年から現在までに医師1名、看護師6名、医療相談員3名の計10名があいちACPプロジェクトによる研修を受講している。令和3年度中に医師1名、看護師1名、医療相談員1名の計3名の職員が厚生労働省の研修を受講する予定です。

今後、さらに患者さんや御家族の意思決定を適切に支援できる人材を養成していくことで、より患者さんや御家族の意思を尊重した形での医療を提供していく。



(写真：津島市ホームページより)

【質問】 厚生労働省の調査によるとACPを知っていると答えた医師は22%、看護師で19%、介護職員で7%、一般の人は3%でした。普及・啓発に関しては市民病院だけでなく、行政もタイアップして進めていく必要があるが、ACPに関して行政として行っていることはあるか。

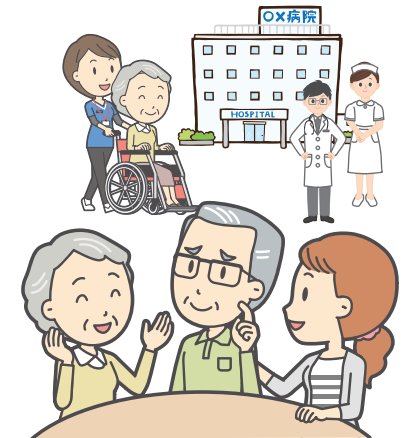
【答弁】 神守支所内に設置している海部医療圏在宅医療・介護連携支援センターで、医療職や介護職を対象とした研修会を実施している。令和2年度はコロナ禍のためオンライン開催となったが、3回実施し、73名の方に受講していただきました。市民向けとしては、海部医療圏在宅医療・介護連携支援センターによる地域住民啓発活動としての出前講座の際にACPの説明もしており、令和2年度におきましては5回実施し、136名の方に参加していただきました。

【質問】 ACPを市民に広く理解してもらうことは考えているのか。

【答弁】 令和3年3月に海部医療圏在宅医療・介護連携支援センターにおいて、ACPシートの内容を含んだ冊子「心をつなぐノート」を作成した。今年度を実施した出前講座から配付を開始している。また、市役所本庁舎、神守支所等に配備し、市民の方への周知を図っていききたい。

【質問】 津島市では、在宅医療・介護に関わる職種の情報共有ツールとしてどのようなシステムを導入しているのか。

【答弁】 在宅医療・介護に関わる職種連携の推進に役立つ「つながるまい津島」との呼称がついた電子連絡帳システムがある。病院、診療所、歯科医院、薬局、介護保険事業所、地域包括支援センター、市役所などがインターネット上で登録患者の情報を共有することが可能であり、地域包括システムを進める中で、在宅医療・介護に関わる多職種連携の推進に大きな役割を果たしている。



【質問】 ACPは今後どう市民に理解していただくのか。また、ACPについて、津島市において今後どのように行われていくのか。

【答弁】 ACPの理解には、御本人が元気なときに最期の状態を想定していただく非常に繊細な側面もありますが、御本人や関係する方にとっても有意義なものであると思う。研修や出前講座を実施して普及・啓発に努めていく。今後は、少子高齢化社会にあってACPの必要性は増加していくものと思う。研修を受けた医療・介護従事者が適切に判断して、御本人や関係する方と話し合いを行い、その情報共有ツールとして電子連絡帳「つながるまい津島」を活用していきたいと考えている。